

決算特別委員会

決算特別委員会（議長、議会選出の監査委員を除く18人の議員で構成、委員長は菊池巳喜男議員、副委員長萩野幸弘議員）は、決算9件の議案について付託を受けて4日間の審議を行いました。

審議の結果、一般会計ほか8会計を全会一致で認定しました。



委員会の開催風景

合併浄化槽設置事業について

問 浄化槽設置の最終目標基数である3,127基に達するには、現在の年間50基から60基のペースではあと30年から40年かかると思われるが。

答 浄化槽設置事業は平成5年からの事業で、22年度は53基の実績だが、年間60基を目標に取り組んでおり、3,127基は33年度以降の最終達成目標値である。設置済が1,034基、残りが2,100基ほどで、毎年60基を達成したとしても、最終目標を達成するまでには長時間を要すが、今後より一層の推進を図っていく。

問 今後厳しい景気の下で、かなりのスピードで普及を図るために、浄化槽の補助金の増額や、附帯工事への補助金

の拡大についての考えは。

答 浄化槽の補助率は3分の2であり、県内自治体でもトップクラスに近い。水回り関係の設備更新、家の改修等の附帯工事には都市計画課の「快適住マイル応援事業」という制度があり、22年度で28件の実績がある。現在汚水処理計画の見直しを図っており、農集排に近いような補助体系も視野に、例えば10戸とか20戸の集合体のような、一定の要件を満たせば、ある程度の高率補助や優遇措置も講じ、総合的な補助体系の構築と水質保全に努めていく

市有林の間伐について

問 22年度98haの間伐をしているが、太くなって途中で折れたり、荒れている所が見受けられる。手入れの見直しは。

答 市有林は、5年間の公有林整備計画に基づいて整備している。現在、市有林の林齢構成は高齢級になっている。民有林の倍の長伐期施業を取り入れている。手入れは、森林組合と監視しながら適期手入れに取り組む。

問 中の雑木が大きくなってきている。太い木を守る手立ても必要では。

答 そのような状況があれば、確認の上対応したい。

問 適正管理上、今の施業計画が適当なのか。

答 木材価格の推移を見ながら、市有林審議会で審議し対応する。

宮守わさびバイオテクノロジー公社の見直し

問 公社は改善を図って黒字とのことだが、どのように進めたのか。



期待されるわさび栽培

答 22年度は人件費等の支出を抑え、一方では試験栽培用わさびの販売で100万円の収益を上げ、補助金も減らした。

問 66%の補助金をさらに改善し、他の法人の見本になるためには。

答 7月から生産者のわさびを公社が集出荷しており、市場単価が高くなった。今後は自ら収入を得て、運営できる体制を作りたい。